

# あごら

**MINI** (59号)  
1982年3月10日発行 ¥100 千40

- 何でも言える ●何でも書けるミニ雑誌〈あごらミニ〉
- 小さな〈ひろば〉=AGORA・〈あごら〉
- あなたの声を待ってます。みんなてつくる〈あごら〉

## インドへの旅

山本 フミノ

年末、インドに二回目の旅をした。先日、メンバーたちに写真を見せてもらう。誰かが汽車のトイレを写している。ドキッとした。インドで印象の強かったもの——いたる所に転がる排泄物。なのに私は一枚もそんな写真を撮っていない。

南端のコモリン岬。聖なる夕日を拝む人びとの足もとに、点々と落ちていく糞。「犬が食べているやつは人間のだよ」とメンバーの一人が言う。沐浴場で人びとは体を清め、口をゆすぎ、洗たくをする。

そのガート(水面へ降りる石段)の上にも糞がある。ニューデリーの大通りに面した壁に、幾筋もついたアンモニア臭のするしみ、石だたみのつばの跡。やつとみつけた公衆便所に入ると、扉のないボックスで、入口を向いて用を足している女たちが並んでいた。便器のかたわらに排泄物がある。圧倒されて一瞬足が動かなかった。

それらを撮ろうという発想が、どうしてまるつきりスッポ抜けていたのだろう。近代の都会に生きる私たちの中では、排泄することは「はばかり」として意識の隅に押し込められている。はばかりしている自分に気がつかなければ、わざわざフィルムに残すようなことはできない。

排泄物がむき出しになっているのは、不潔だし、伝染病が広がっていく原因になるのに違いない。でも道端の排泄物は、衛生に対する無知のせいだけではないらしい。

汽車の中で食べかすを入れようと、ゴミ袋を取り出すと、隣に座った土地の人が「窓から投げて大地に還しなさい」と言う。最初はおそろおそろと落とす。まずバナナの皮、次にサンドイッチの紙箱。投げ捨てるときの爽快感を味わうと、だんだん大胆になっていく。アスファルトにおおわれていない大地は、塵芥を飲み込んでいく活力を、まだ失っていない。

「インドのどこがいいの」ときかされると、「日本とすごく違うから」とあいまいに答える私。でもきくと今年もインドに行くだろう。そして今度は、ちゃんと「下」の部分にもカメラを向けられるようになるだろう。

### 今月のなかみ

＜編集担当・あごら北東京＞

情報	表紙のことは	インドへの旅……………山本フミノ……………1
報	エコロジー運動とフェミニズム運動……………2	
	アビール……………2	
	核廃絶・軍縮へ3000万署名を……………6	
	核廃絶へ 五月には反核50万人集会を！……………7	
	『声なき叫び』上映運動に協力を……………7	
	今年度分会費(2月分) 報告……………7	
	求むアルバイター……………8	
	女のつどい・女の講座……………8	

共に考え

共に学ぼう

老いについて

考えませんか

27号の予定テーマは『女と老い』。気長に考えていきたいと思ひます。一緒に考える方、ご連絡を。(八あごらV気付でハガキをください)

斎藤千代・高橋倭子・中村智子  
外国のフェミニストと  
英語を学びませんか

◆月曜クラス

・毎週月曜夜6時15分～7時30分

・月謝 3千円(非会員は6千円)

◆水曜クラス

・毎週第1第3水曜10時30分

～正午

・月謝 2千円(非会員は4千円)

◆会場は「あごら読書室」(地下鉄丸の内線「新宿御苑前」下車

1分、03 354 9014)

◆月曜クラスは高卒程度の力で十分。水曜は、少し慣れた方向きです。

◆いつからでも参加できます。

# エコロジー運動とフェミニズム運動

70年代に入り、フランスを中心とするヨーロッパ各地にエコロジー運動が巻き起こり、今や反公害、反核運動の巨大なパワーとなっている。“生命の尊重”を謳うこの運動とフェミニズム運動は重なり合うものがある。この二つの運動の関わりについて宮川中民著『エコロジスムの展開』を手がかりに話し合ってみた。

今日は『エコロジスムの展開』をテキストに、フェミニズム運動とエコロジー運動のかかりについて話し合ってみようと思います。まず問題提起者の方からどうぞ。

## エコロジー運動の中に

### 一つの方向性

A子 このへあごら北東京Vに一つの方向性がほしいと前から思っていました。女性解放というのは社会的条件が必要だと思われ、どういふ社会に女も男も解放されていくかを考えたときに、今の資本主義とちがう方向じゃないと女性解放はあり得ないんじゃないかと思っていたとき、この本を読んで、これじゃないかと思っただけです。中央からの技術的な管理ではなく、自分たちでつくっていくひろがりのある発想にひかれ、女性解放とつながるんじゃないかと思ったの。

F子 この本に女性解放運動がめざす一つの方向性があると思うわけね。つまりフェミニズムがどういふ社会を求めるかというとき、エコロジーが提示する社会があるべき社会だと思わうわけ？

A子 あるべき社会かどうかはわからないけれど、そういう方向性の中にあると思う。

B子 私は、ある市民団体主催の講演会でエコロジー運動を知り、その中で西ドイツの『緑の党』という、女性がエコロジー運動の主体となつて生命の問題を中心にした運動をひろげている組織の紹介をうけて、もしかしたら、私の考えている女、人間の解放というもの、エコロジー運動が結びつくんじゃないかと考えた。生命を産み、育む女性が運動の核になるということで、この社会の流れを変えようと思ったのね。

反戦・反原発をたたかう場合、私たちの生活のありようの転換を同時にやっていかねければならないと思うし、反原発までいくんだつたら、自分たちの生活の質を点検するような運動をやらないと本当の運動にならないんじゃないかと。そこがエコロジー運動の重要なポイントだと思うの。でも、フェミニズム運動とエコロジー運動を結びつけることは、日本ではまだなされていらないように思う。

C子 エコロジー運動がどういふ運動か、まだわからないところもあるけれど、今までの運動は、生活の場からはなれて運動は運動、生活は生活で、その生活は今の社会によってつくられた価値観に汚染されているというよなことがたくさんあると思う。たとえば、マイホーム主義とか。運動をやっているでも自

### 限界にきた

### 高度経済社会

A子 たとえば原発の問題をとると、テレビなんかでは、安全が安全でないかという論議がされるだけで、何か足りないかと思っただけ。安全であるかどうかというのは、管理すること、安全ということもあるわけでしょう。この本で思っただけ、もっと自分たちにわかるところまで引き戻して、そこで確認してい

分たちの生活も含めたトータルな価値観の転換につながっていないところがある気がするのね。その意味で、エコロジー運動の日常生活のかかわりの中でアピールしてというところに共鳴するものがあるの。

D子 反核・反戦にしてもフェミニズムにしても根は一致していると思うけれど、つながっている実感がない。別々に運動して、声にもならない声をあげて何も変えられない、でも声を出さなきゃあというがらばリズムだけでやってきたわけだけれど、これからは、なぜ連帯できないのか、どういふふうに連帯したらいいのかを自覚して、個々の運動体が積極的な連帯をもたないと何も変えられない気がする。その拠り所をエコロジーだけに求めるんじゃない、考える素材としていいと思うのね。

C子 さんの意見と同じようなことを最近強く感じて、どんなにいろいろな活動家でも、やっぱり評論家的なところが免れない気がして。運動しにいふ場所と生活する場所が離れていることに疑問もあるしね。エコロジー運動をもっとフェミニズム運動にとり入れていく必要性は感じる。

けば、どういふ安全になるかという話になる。自分たちで安全を考えるのか、誰かに安全にしてくださいとお願ひに行くのかというちがいのような気がして。

D子 原発の問題でいうと、専門家や政府の説明が足りないという、いわゆる情報公開的なところでアプローチしていると思うけれど

ど、専門家に説明されても、もう私たち国民は、その説明すら判断できないようなレベルに科学が進んでしまったわけよね。もう一度、私たちのレベルに引き戻して考えるということね。

A子 生産をあげるというのは効率化の考えでしょ。女性は、子どもを産む、生理があるということから効率的ではないわけ。効率を追求する社会では切り捨てられちゃう。

B子 もしろ女に男を合わせるという表現があったけれど、今までの女性解放運動は男が外で働いて経済力を得ているのだから、女も一緒に外へ、という考えで、それだけでいいのかという問題も含んでいるように思う。

C子 でも、その問題はむしろかしいし、きちんと考える必要があるわね。

F子 私もそう思う。現実の段階としては、まず女の人も男の人も同じように機会がひらかれるとか、同じ条件で働けるということが大事であって、それを飛びこえて、女のレベルに男を合わせるというふうに、ばっともっていきけるんだらうか。

C子 女性の権利を具体的ところで拡大していく場合に、まだまだ遅れている状況がたくさんある中で、エコロジーの考え方でたかうとしたら、どういうことになるかという

本音 か どう か が

つきつけられる

B子 この本に関して言えば、六〇年代は世界的に高度成長期で、それによって七〇年代は資源の枯渇や公害問題が発生して、その反省点にたつたうえで八〇年代があるわけね。

疑問、わからなさがあるわ。

D子 フランスのように、これだけエコロジーが浸透していれば受け入れやすいのね。要するに人間らしい人間の生き方ということでしょう。

F子 今みたいに不況になると、ヨーロッパでは日本並みに働かないから生産があがらないとか、勝ち抜くためにはまず効率をあげなければとにいわれる中で、どう対決したらいいんだらう。

E子 世界経済そのものがそういうところになってきているということは、わかる人はわかっていると思うのね。働かないからではなくて、どんどん生産しても消費する場所がなくなってきたつあるという現実が日本にもあるし、ヨーロッパにもある。消費ができないかぎり、経済はのびていかないわけでしょ。まさに一つの流れとしての必然の結果であるから、それを労働者云々というのは、生産至上主義の最後の悪あがきであって、これ以上、生産自体をあげることが不可能なんだという上にとったところで話をしていかなければいけないと思うの。だから、基盤をまったくちがうところを持つてこないかぎり、無理な土俵で相撲をとるはめになるんじゃないかしら。

今の経済社会のしくみがよくないんだ、ということを書いていかなければならないんじゃないかしら。

E子 そこで大事なことは、よくないんだというのを国民の総意として……、ちょっといやなことばだけれども(笑)、私たちみんなが本当にそう思えるかどうかよ、まずは本音として思えなければ、どうしたらいいかなんて言ってもはじまらないのよ。思えるか

思えないかが、私たち一人ひとりにつきつけられている気がするわけね。生活のダウンができるのかできないのか、できるという考えが本当にあるのか、多分ない人のほうが圧倒的なんだらうけど。本当のところはどうなのかをまず出発点にしたところでやらなければいけないと思う。

B子 そういう生活をした人、自分たちで電気をおこしたりとか(笑)。自分の生活の中で、できることもあるわけでしょ。たとえ、すぐに物を買わないで、リフォームす

猛スピードで進んでいる

地球全体の生態系の危機

E子 あるいは、私たちの想像以上に、事態は深刻なんじゃないかと不安に思うときがある。私たちの気がつかないところで、地球全体の生態系そのものが蝕ばれているという危険があるの。

B子 今、NHKで食糧問題をシリーズでとりあげているけど、地球全体の耕地の砂漠化がすごい速度で進んでいるらしいのね。化学肥料が一つの原因になっているらしい。エジプトあたりでは、砂漠を耕地にするために川

とか……。

A子 自家発電となると、一部の人の趣味みたいになっちゃうけど(笑)。確かに、どんなに買わされる方向にむかわされているわけ。消費を拡大すればいいということばで働かされている、そういう社会の行きつく先に希望はないと思ひ定めなかったら、方向転換は出てこない気がする。そこから出てきたものは、昔みたいにみじめな生活とはかぎらないんじゃないか……。

E子 いや、それはわからないと思う。SF的かもしれないけれど、昔よりもっとひどい生活が待っているかもしれないということも考えうらと思う。たとえば土壌がだめになっているとか、山の本がだめになっているということが現実にある、木というのは、何十年もたないと育たないわけでしょ、気がついた時にはもう生産に間に合わない……。そうすると、昔の貧乏どころではないわけよね、人口だって圧倒的に多いし。

E子 をせき止めてダムを作ったために、塩分を含んだ猛毒の植物が発生し、ますます砂漠化が進んでいるらしいの。また、世界一の食糧輸出国アメリカでは、今まで耕地だったところが荒地になって、耕地が目に見えて減っているというのね。

D子 好んで山林や畑をなくしている日本人のおかしさね。

B子 だからこそ、エコロジー運動を提唱して、汚染されることから防ぐようにす



れば、あるいは間に合うかもしれないと思うの。

D子 間に合う、間に合わないと言ったって、人間の生きる土壌そのものがだめになつたら、本当にアウトなわけよね。それなりの科学者は、当然わかっていることだろうけれど。ただ、それが情報に流されてこないわけでしょ。豊かな生活というイメージだけが一方的に流されてきて。

F子 それと、私たちの側にも専門家のいうことは正しいみたいなのがあつて、疑問に思ったことを聞きにくい精神構造になつていく。むこうも聞くといやな顔をするしね。

## 今こそ、フェミニズム運動に

### エコロジの視座を

D子 管理されやすいというのは、自分を突き出していくという発想が育っていないからじゃないかしら。だから、誇りがないと思うの、日本の文化には。物質的にはうんと豊かになったかもしれないけど、時代に対応していく発想というのが全然育っていないところ、私は、そこをふんばらなければいけないと思うのね。

F子 そういうものを獲得していくためには、どうすればいいんだろう。

A子 思つていても言わないということ、日常的なところで言っていくという訓練も大事だと思うの。

C子 私は、ちがった価値観に対して、ノリと言うだけにとどまらずに、それとはちがった価値観を、具体的に少しずつでもつくつていかなければいけないと思うのね。そうでな

E子 やつぱり日本人というのは、善良でめでたくできているんじゃないかしら。こういうひどい状況の中で、前回の衆参同時選挙では自民党の圧勝ということがあったわけでしょ。あの時は、国民のお人よし加減にせつなくなつて、自民党というより、むしろ私たちの側の多くの人たちに腹が立ったというのが実感だったけど、私たち自らが、だまされながら墓を掘りつつけているようなものよね。

B子 公共意識のなさとかブライドのなさが育てられているから、日本の国民性って、とても管理しやすいと思う。

いと、ふんばるといふ意味もはつきりしないし、対抗しきれない。

D子 一人ひとりがちがった価値観にぶつかつていただけでは、あまりにも小さすぎるものね。社会機構ががんじがらめだし。自分だけでも守り通そうとしてやっただとしても、全体からみれば、自己満足でしかない。社会は、そのまま正反対の方向にひとり歩きして、どんどん砂漠に向かっていくようなもので、社会の「進歩」に運動の速度がついていかなければ、じゃあ、どうするかということを見つけれ

E子 私は、見つけられると思うのね。というのは、たとえばリブ運動は、この十年間で一部のハネあがりという見られ方ではなく、もっと人びとの身近かなものになってきた。女性は、昔よりもうんと変わってきていると

いうのが実感でわかるのね。たとえば離婚なんかでも、離婚しても自覚と経済力があれば何とか生きていける時代になってきた。だから、変わるんだということ、変わったところが確実にあるんだということね。私たちの前にいろいろなことをやってきた女性たちがいるけれども、だからそのあとを歩く私たちが、すこく楽よね。市川房枝さんの時代や、一世代前の小沢遼子さん、桐島洋子さんの時代に、私がどれだけのことができたかと思うと、うんと今のほうが楽だという気がするの、先駆者たちの後で。

もう一つは、さらに具体的な女性解放の方向性ということでは、模索している時期だという気がするけれど、アメリカなんかでも、ベティ・フリーダンの時期が一つ終わって、草の根運動も一つのピークにきて、また波がちがうところに行きそうだということを伝え聞くけれども、私は、まさにエコロジ運動をリブの中に引き入れるときじゃないかという気がする。今の産業社会というのは、自然を否定する、破壊する、征服するという思想があつて、それが今、根底からくずれつつあるわけでしょ。それに対して、自然を肯定し

## 問われる

### 根本的な価値観の転換

A子 今までにいろいろな話がでて、わかつてきた部分もあるけれど、もう少し具体的に話さないと――。

B子 具体的なことでは、衣食住の問題から考えていけばいいと思う。最近では、「道られる男の自立」というシリーズで朝日新聞にも

て、失なわれ、破壊されたものをとり戻さなければならぬというのがエコロジ運動であるわけだけれど、その自然の中に女性も含まれていると思うのね。というのは、産業社会が進む中で女性「性」が否定されてきて、人間の「知」の部分を上において、「肉」の部分を下におく、その「肉」の部分を女性が負ってきたんですよ、出産ということ。それを不浄なものとする考え方がずっとあったわけよね。

そのことを青木やよひさんがレポートの中で見事におっしゃっていたのをメモしてあるんだけど、簡単に、という文明とは野蠻の克服であり、肉体の抑圧、すなわち性の軽視でやないかというのね。歴史の中で否定されてきた女性の性を受容するということは、肉体の受容であるわけよね。肉体というのは自然でしよ。そこで、さっきのエコロジ運動と結びつくわけね。まさしく、エコロジ運動というのは、時代の流れの中で生まれてきたものね。

F子 うーん、なるほどね。

とりあげられていたけれど、仕事人間であり続けていくうちにまったく家事能力のない男の人生の末路みたいなものが点検されはじめたじゃない(笑)。そういうことに気づきはじめて男性も確実に増えているんじゃないかしら。そのような男性たちと手を結び合える

運動でありたいと思うの。

E子 どうしてそうなったかというのと、それはやっぱり、リブ運動の成果だと思ふの。

一同 そうそう

E子 男性にとつては、たいへんなカルチャ・ショックよね。だけど、最後の部分では、どうしてもだまっていまい部分がある、正直にある男性が言っていたけれど……。

さっき、安全が安全でないかという議論では物足りないという意見が出たけど、そのへんにエコロジ運動を考えるにあたっての鍵があるような気がする。じゃあ、どの発想につながるかというと、まさに、自然破壊につながるかならないかということだと思ふんだけど。何を自然破壊というかがもう一つ問題になるけれどね。たとえ安全であったとしても、私たちに必要であるかどうかという価値基準ね、大切なのは。つまり、エコロジ運動というのは、自然を破壊しながら、恣意的に価値をつくり出すということをするためきた合理的優先の社会の中で、もう一度自然を大切にしたい、人間の生命や肉体を価値として認めていきたいという運動じゃないのかな。

F子 与えられたものを鵜呑みにするんじゃないけど、もう一度検証してみ、そのためには巨大な技術では検証できないから、手にはる範囲の小さな技術で、ということかな。

C子 そうじゃないんじゃない？ 何を価値として認めるかという発想の転換なんだと思ふの。自然の摂理の大きな流れの中で、その価値をみれるかどうかと思ふ。

B子 人間の存在そのものが自然の摂理を冒すという例は、枚挙にいとまがないほどあるわけでしょう。一例を挙げると、人間が自然を求めて山登りをして、残飯やゴミなどを置いてくるとするでしょ。そうすると残飯をねら

ってネズミなどが出沒して、雷鳥などの高山動植物を荒らししてしまい、何千年もかけて整った高山の生態系を破壊してしまうというのね。だからエコロジの考え方というのは、自然の摂理に学びながら、人間の英知を加味していくということにあると思ふのね。単に自然の摂理に従うだけじゃなくて。

F子 技術そのものがエコロジと対立するとは考えられないわ。

B子 そうね。高度なテクノクラットの時代を経て、それを反面教師として生まれるものなのよね、エコロジというのは。技術を反面教師としながら、どのように生かしていくかという面もあるわね。

C子 技術や科学の発達そのものはいいことなんだけど、それが管理するしくみの中にまきこまれているのが今の社会よね。この本にも書いてあるけれど、学校教育なんかを例にとつても、子ども自立する能力を養う教育というよりも、管理する機構にだけ適応できるかを教える教育になっているのよね。結局、人間の自然性みたいなものをどんどん破壊するしくみになっていて、それにのっかっていくのが優れた人間といわれている。そういう全体の社会機構に対する根本的な価値観の転換を追っていると思ふ。

E子 これは、もっと多くの人が、もういやだと思うところまで行きつかないと……。

D子 みんなが実践しはじめて、はじめて技術的にも科学的にもそれが必要かということが出てくるのよね。

F子 でも、そうなったときは、どうなるんだらう。

E子 もじかしたら、間に合わないかもね。

B子 でも、希望を抱いていこうよ。何ごと、少数派からはじまるんだから(笑)。

## エコロジ運動とは

宮川中民著「エコロジスムの展開」(現代の理論社刊)中の「エコロジ運動と現代」の中からエコロジの理念と思われる部分を、一部抜粋してみた。

1 第三世界の収奪のうえに成り立つわれわれの豊かさそのものが、じつは豊かさではなく、逆に危機を生みだす。こうした自覚から生まれたものに、欧米におけるエコロジ運動がある。

一九七二年のローマ・クラブの報告やストックホルムの環境会議は、このまま文明が発達すれば、歴史上前例のない災害に見舞われるだろう、との警告を発し、七三年の中東戦争は、資源の枯渇が人類の日程にのぼったことを告げた。外貨をかせぐ石油などの資金を産出しない第三世界、むしろ「第四世界」諸国では、自給自足が不可能になり、食料をまかなうのに、外国からの穀物の輸入にたよるようになっていく。アメリカ、ソ連を初めとする世界の大国は、第三世界に兵器を売ることによって、外貨をかせぎ、第三世界の石油などの資源を購入する。

3 近代に発達した科学技術は、自然を征服し人間にとってより良い生活をきずくことを目的としていた。しかしエコロジ運動は、それとは反対に、自然を尊重し、自然との共生によってより良い生活をきずくことを目的としている。

エコロジ運動の最大の課題のひとつは、環境公害、薬品公害など、自然破壊の問題にとりくむことである。それは、科学技術の発展によって人間はますます幸福になるという考えの逆を行くものだ。たとえば、

いかに母乳に構成成分が一致した人工乳をつくったとしても、母乳とは異なっており、それを赤ん坊が飲むことによって及ぼされる影響を測定することすら、科学の力を越えている。

3 テクノロジの進歩は、生産性を高め、人間に豊かさを保障するものと考えられてきた。しかし、テクノロジの進歩は、資源の枯渇や環境破壊をもたらすにとどまらず、民主主義の危機をひき起こしている。いままでの考え方では、科学技術が人間に益をもたらすか、それとも害をもたらすかは、人間の使い方の問題だということであつた。人間がすぐれた道徳をもつならば、科学技術は、より良く使われ、人間の幸福に役立つものだということの意味していた。つまり原子力は、軍事的に使われれば、人間の破局を招くが、平和的に使用されれば、人類に巨大なエネルギーをもたらす。人類の繁栄に貢献するといった考え方であつた。しかしエコロジ運動は、民主主義の視点から、原子力の軍事利用だけでなく平和利用についても反対する。発達した科学技術はますます複雑で、専門化し、いまや専門家しかそれを管理できず、一般人は科学技術に近づくことができない。科学技術の発達に伴って、資源やエネルギーの使用は大規模化し、生産の単位は、ますます巨大になり、科学技術に伴う知識は、ますます専門化する。

だまっていれば戦争になる！

## 核禁止・軍縮へ3000万署名を

核戦争の危機がひしひしと感じられる今、何としても戦争を阻止したい。私たちのあふれる思いを第二回国連軍縮特別総会にアピールしよう、3000万署名を集めています。

さまざまな団体が取り組む中で、女たちも共同行動を始めました。戦争への道を許さない女たちの会Vへ第二回国連軍縮総会へ向けて婦人の行動をひろげる会Vに参加する中で、あごらVも署名活動に取り組んでいます。

先月、独自の署名用紙を印刷してお届けしましたが、この半月で44761円のカンパと346名の署名がさっそく返送されたとともに、もっと用紙を送ってほしいという声も続々寄せられています。用紙を増刷しましたので、ご希望の方はお申し出ください。なお、ご承知とは思いますが、この署名は「だまっていれば戦争になる」いまの情況に対し、それぞれの人のできる反戦運動を展開する契機として行なうものですので、単に署名を集めるだけでなく、署名依頼をきっかけに、反戦について話し合い、その輪を広げていきたいと思います。

◆締切日は4月29日あごらV必着です。集まった署名用紙とカンパを4月30日に各グループが持ち寄ることになっています。

◆署名用紙には表紙をつけて整理し、まず日本政府に提示して政府に強く要請します。(国連で非核動議が出されるたびに、日本政府は棄権しているのです！)

◆その後、ニューヨークに持参し、6月10日

の国連軍縮特別総会に提出し、アピールします。

◆各団体が現在署名運動を展開していますので、若干の重複はやむを得ません。

◆カンパはむりじいせず、志のある人が出します。反戦の意思表示が何よりも重要です。

◆カンパはすべて台帳に記録しています。領収証は4月30日のまとめ以後お送りします。

### 5月には反核50万人集会を！

署名運動のほかに、次のような各種の取り組みが予定されています。ふるってご参加を。

●3月8日「国際婦人デー」に街頭署名

●3月21日 反核軍縮20万人集会(於広島)

●4月8日「戦争への道を許さない女たちの会」シンポジウムⅡ軍縮運動のすすめ方

●4月10日「婦人参政の日」記念 反核軍縮シンポジウムと映画「人間をかせせ」上映

●4月10日「婦人参政の日」記念 反核軍縮シンポジウムと映画「人間をかせせ」上映

●4月10日「婦人参政の日」記念 反核軍縮シンポジウムと映画「人間をかせせ」上映

●4月10日「婦人参政の日」記念 反核軍縮シンポジウムと映画「人間をかせせ」上映

●4月10日「婦人参政の日」記念 反核軍縮シンポジウムと映画「人間をかせせ」上映

●4月10日「婦人参政の日」記念 反核軍縮シンポジウムと映画「人間をかせせ」上映

●4月10日「婦人参政の日」記念 反核軍縮シンポジウムと映画「人間をかせせ」上映

●4月10日「婦人参政の日」記念 反核軍縮シンポジウムと映画「人間をかせせ」上映

●4月10日「婦人参政の日」記念 反核軍縮シンポジウムと映画「人間をかせせ」上映

●4月10日「婦人参政の日」記念 反核軍縮シンポジウムと映画「人間をかせせ」上映

●4月10日「婦人参政の日」記念 反核軍縮シンポジウムと映画「人間をかせせ」上映

●4月10日「婦人参政の日」記念 反核軍縮シンポジウムと映画「人間をかせせ」上映

●4月10日「婦人参政の日」記念 反核軍縮シンポジウムと映画「人間をかせせ」上映

### 『自分流に考える』をよんで

駒尺 喜美

戦争のさ中に、自分の家だけ白旗を上げたと言つて、友人から泣いて諫められたこと

があったが、その時から今日まで、私はずっと白旗主義である。が、最近、男性にも白旗主義をかがけている人がいることを知って、愉快になってしまった。「自分流に考える」森嶋通夫さんである。

森嶋さんは、私とはちがって、いつてみれば、優等生的発想から考えを押しつめていて、「万が一にもソ連が攻めて来た時には自衛隊は毅然として、秩序整然と降伏するより他ない」という。彼はソ連が攻めてくると思っているわけではないが、軍拡論者が、攻めてくればどうする、どうするといふから、万が一の時は白旗降参するよりないといつてのけているのである。

資本主義より社会主義のほうがいいから、ソ連に降参してよいといふのでなく、純粹に(?)戦略的、戦術的に、これまでの戦争で、各国の経験や、現在の国際状況を考察して、いった結果、白旗主義が最上の戦術だといふわけである。この本のサブタイトルが「新・新軍備計画論」とされているように、日本の方法で本気で考えるならば、軍備拡大は劣悪な方法であること、つまり国防策は、タンク、やミサイルのハード・ウェアでなく、外交や経済協力や文化交流のようなソフト・ウェアでゆくべきだといふことを、第二次大戦中の世界各國の動きを分析して、結論しているのである。

私は悪い戦争はもちろん、良い戦争も反対である。良い戦争もいつ悪い戦争となるかわかったものではない。良いにしろ悪いにしろ、そして勝つにしろ負けるにしろ、戦争による犠牲は大きい。空想的、敗北的だといふにかなうなどられても、私は白旗主義を守るつもりでいたが、私の場合は、いわば劣等生的発想か

らであった。が、森嶋さんは、優等生的発想からいっても、同じ結論になることを論証して下さったので、この本を紹介する気持ちになりました。

### 駒場祭の暴力？!

東大アイドルコンテスト

ミスコンテストを糾弾する会

昨年十一月二十三日駒場祭において、アイドルプロデュース研が企画・主催して「第二回東大生が選ぶアイドルコンテスト」が行なわれた。私たち「アイドルコンテスト・ミスコンテストを糾弾する会」は、これに対する抗議行動のひとつとして、当日、会場入口においてびらまきを実行した。そこには日本テレビ、週刊読売などのマスコミも取材に来ており、私達も取材を要求されたのであった。

しかし、私たちは、マスコミのこれまでの、私たちのような運動のとりあげ方のひどさといふのはよく知っていたため、気をつけて対応していたのであった。

ところが、私たちが、顔などの撮影を拒否したにもかかわらず、「週刊読売」のカメラマンがだしぬけに、私たちの会員のひとりの顔を撮ったのであった。そこで被撮影者は、「何をするんだ!」と、カメラマンのカメラを持っていったびらでバサッとはいた。するとカメラマンは、自分の、無断撮影というマスコミの権力をカサにした「暴力」を棚上げして「ぶった!」——彼女は「暴力」をふるった!——と騒ぎ始めた。そこで私たちが「写真というものは撮られたその瞬間から、撮られた者にはどのようにそれが利用されているのか全くわからない。勝手に撮るといふのは許せない。」と詰めよると、「あなたはボクをぶつ

たのだから勝手よばわりはできないはずだ」と聞き直った。さらに「無断撮影というのはマスコミという権力の大きな暴力ではないか」と追求すると、「記事になったら告訴してください」と居直った。私達がさらに議論を追うと彼は「まあいいや、遊んでんじやないんだから」と、捨てゼリフか逃げ口上かわからないような言葉を吐き捨てて会場内に入ってしまった。

その後、十二月十三日号の『週刊読売』に、彼女の顔写真とともに（それも、一位に選ばれた人の隣におかれていた）『女ってみせもの？』——抗議のビラを会場入口で配る「アイドルコンテスト・ミスコンテストを糾弾する会」の一人、本誌カメラマンは、「なぜかこの撮影直後、彼女にぶたれた」というコピで記事にされていたのである。私たちはこの『週刊読売』の暴挙に対し

## 女の映画『声なき叫び』 上映運動にご協力を

女の側から強姦を描いた映画「声なき叫び」は、7月9、10、11日に日仏会館で上映が決定。今、資金・スタッフ・強姦についての資料集めやスリーパー翻訳に奔走しています。是非協力してください。入場券となる上映協力券千円、一時お借りする上映協力金三千円。送金は郵便振替口座、東京7-48985の「女たちの映画祭実行委員会」へ。カンパもヨロシク。

連絡は、渋谷区代々木4-28-5、東都レジデンス410。TEL370-6007（水曜夜か土曜午後に）。

て、抗議文を送り、謝罪を求めた。電話もかけたのであったが、数回の後やっと編集長が出て、「回答はします」と応えたのであったが、いまだになしのつぶてである。

大体、「なぜか」なんていうことは、カメラマンは無断撮影の抗議とわかっていたはずであり、「ぶたれた」なんて大げさすぎる。びらではただただだったのだ。

結局、私たちが報道するといっても、私たちの主張を報道するのではなく、ある種の「みせもの」として報道したのである。どうみても私たちを公平な立場で（彼はそういう立場で取材すると言っていた）なんか取材し、記事にしたなどは見えない。マスコミというものの愚劣さを改めて認識する一件であった。

連絡先 堂前標 文京区千石3-11-10  
長谷川庄 2F2号  
電話 946-11455

## 求むアルバイター 月に4-10日間働ける方

BOCでアルバイトを求めています。月間30-70時間程度編集事務や雑用を手伝って頂ける方。レイアウト・整理等の経験があればなお可。希望の時間給、出勤可能な曜日と時間帯、自己紹介文を下記にお送りください。〒160 東京都新宿区新宿1-9-6 BOC

## おめでとっ!!

朝日新聞ニューヨーク特派員として活躍中の下村満子さんが、81年度のポイン上田賞を受賞。国際的な活躍の目覚ましい「国際記者」に贈られる賞で、女性記者としては下村さんが初めてです。

関和子さん 立教大法政学部社会人コースに合格。人工心臓弁の手術に耐えた関さん、人生の折り返し点を乗り越え難い試験にチャレンジ、見事成功!

## 3月15日"we"創刊!

家政教育社を追われた半田たつ子さんたちを支援する女たちの熱意をこめて月刊weが誕生。現在申込み数2200。あとひと息で定期発行を維持できます。同封振替用紙でゼヒ。

## 今年度分会費

2月1日-2月27日分の報告

1月に引き続き順調に入金が続ぎ、2月には283人の方から166万8千円の今年度分会費を頂きました。基金は12人の方から5万6千円でした。(今年度分累計532人の方から315万321円、基金は22万9千円)

## 編集後記

このところ参加者が少ないへあごら北東京。例会が、より意味深いものになるように、今年にはひとつのテーマをほりさげてみることにしました。今回は、フェミニズム運動とエコロジー運動のかかりについてでした。

蔓延する物質文化の中にあつて、私たちは、確実に破壊に向かっている地球全体の危機を知らなすぎるのではないか。人類が気づいたときには、ひょっとしたらもう遅すぎることになるのでは。

あまりに恐ろしい現実です。私たちの手でどれほどのことができるかわかりませんが、次回も継続座談会をくみ、考えていきたいと思ひます。講師に「いのちのために行動する会」の西尾昇さんをお招きしています。希望者はぜひどうぞ。(志賀)

## 育ち合い

—保育をわたしたちの手に—

編集・婦人民主クラブ  
パンフレット委員会

価 五五〇円  
〒二〇〇円

このパンフレットは婦人民主新聞一九七九年二月九日号から約二年間掲載してきたシリーズ「育ち合い」を集録し、なお保育の全体像をつかむために若干の補足・資料を加えたものです。ここに見られるたくさんの実践は、多くの示唆を含むものですが、産休明けや長時間保育論争にみられるように、特定の保育像を提出したものではなく、意見の隔りは隔りとしてそのままだに、今後、子供と共に育ち合う関係を模索する一つの手がかりとなれば幸いです。

- I 保育所はいま
- II 産休明け保育と長時間保育
- III 保育労働者の労働実態
- IV 差別とたたかう保育
- V 男の子育て
- VI 諸外国の保育状況
- VII 保育行政
- 資料篇

送料一冊二〇〇円、二冊二五〇円、四冊まで三〇〇円、七冊まで三五〇円、十冊まで四〇〇円です。

■お申し込みは書記局へどうぞ。

婦人民主クラブ



# <女のつどい・女の講座>

日	時	テ	マ	会	場
3月10日(水)	19:30~	緑のふるさと・3月例会 林 郁		新島私塾 03-323-4348	
	19:30~	「在日朝鮮人の教育問題」福島信夫朝鮮を考える会3月定例学習会		大津市民会館会議室	
12日(金)	13:30~15:30	婦人のための講座・法律(3/12~4/9毎週金曜)		婦選会館 370-0238	
13日(土)		あごら札幌・例会 「女と情報」読書会		喫茶のあ(南4142) 511-1377	
	13:30~16:00	婦人労働の現状を考える 斎藤千代 主催仙台婦人民主クラブ		仙台市戦災復興記念館	
14日(日)	13:30~17:00	あごら浦和・例会 「結婚」を考える		浦和コミュニティセンター	
		あごら大阪・例会			
		あごら九州・例会			
		第2回エイボン女性駅伝 エイボン女性文化センター主催		福岡市立婦人会館	
15日(日)	18:00~21:00	結婚の意味を問う継続討論 問い合わせ 藤村 03-354-2543		連絡 03-262-8018	
16日(火)		あんふあんで・出産アンケート会議		渋谷勤労福祉会館	
17日(水)	18:30~21:30	アジアの女たちの会・女大学 「ふたたび“女”は家に」——家庭基盤充		連絡 03-329-6437(2時~4時)	
		実政策を問う 話 庄野夏子・草野いづみ他		渋谷勤労福祉会館	
18日(木)	18:30~	刑法改悪に反対する婦人会議・定例会 (毎週木曜日)		ジョキ 03-357-9565	
	18:30~21:00	あごら26号編集会議④		あごら読書室	
20日(土)	14:00~22日夜	新島私塾哲学合宿 定員8名(先着べ切) テーマ「私の仕事を考える」		新島私塾 03-323-4348 会費2万円	
21日(日)		反核・軍縮20万人集会		広島	
	13:30~17:00	あごら京都・例会		ジャンバラ	
		あんふあんで・4月号編集準備会議		連絡 03-329-6437(2時~4時)	
	15:30~17:30	良心的軍事費拒否の会・定例会		連絡 03-464-8840	
		あごら札幌・「今、戦争を考える」連続講座・「女と情報」読書会		喫茶のあ(南4142) 511-1377	
	13:30~17:00	あごら浦和・例会 「結婚を考える」		浦和コミュニティセンター	
22日(月)		鉄道の7人とともに性による仕事差別・賃金差別と闘う会・運営委員会		連絡 ジョキ 03-357-9565	
23日(火)	18:00~21:00	「日の丸」とアジア 鶴見良行 日本はこれでもいいのか市民講座		家の光会館(飯田橋駅下車)	
27日(土)	13:00	あごら九州・例会			
	13:30~	女性と健康 講師島田とみ子・古川幸子 婦人問題懇話会例会		連絡 508-8431	
	13:00~	「主婦の再就職を考える」パート・未組織労働者連絡会 講師 中島誠ほか		全水道会館5F 03-812-4221	
	19:30~	「教室の中の性差別」行動を起こす女たちの会・3月定例会		連絡 ジョキ 03-357-9565	
30日(火)	18:00~21:00	「食べ物の味を問う」前田俊彦 日本はこれでもいいのか市民講座		家の光会館	
	19:00~21:00	あごら北東京・例会 「フェミニズムとエコロジーについて」継続討論		婦人協同法律事務所	
		講師 西尾昇(いのちのために行動する会)			
4月1日(木)	18:30~21:00	あごら26号編集会議⑤		あごら読書室	
5日(月)		鉄道の7人とともに性による仕事差別・賃金差別と闘う会・運営委員会		連絡 ジョキ 03-357-9565	
6日(火)	18:00~21:00	「若狭から原発を考える」水上勉 日本はこれでもいいのか市民講座		家の光会館	
7日(水)	19:30~	落合恵子と語ろう(仮題)(私たちの雇用平等法をつくる会)		渋谷勤労福祉会館	
10日(土)	13:30~16:00	婦人参政権行使のつどい 映画とシンポジウムの集い		日本教育会館(神田一ツ橋)	
11日(日)		あごら九州・例会		福岡市立婦人会館	
13日(火)		あごら札幌・例会 「離婚から結婚をみる」		喫茶のあ	
		戦争への道を許さない女たちの連絡会・定例会		連絡 03-816-2057	
	18:00~21:00	「産業ロボットは何をもたらすか」星野芳郎 日市連市民講座		家の光会館	
16日(金)	18:30~21:30	あごら26号編集会議⑥		あごら読書室	
19日(月)	10:00~12:00	日本の中世史(4/19~隔週月曜日)		婦選会館(370-0238)	
21日(水)	19:30~	女大学・アジアの女たちの会		渋谷勤労福祉会館	
24日(土)		あごら九州・例会		福岡市立婦人会館	

## 各地のあごら連絡先

あごら旭川	旭川市神楽岡1条5丁目3 田代慶子 0166-65511
あごら札幌	札幌市西区琴似1条6丁目グランドハイツ琴似 408号 細田英理子 011-644-4122
あごら仙台	仙台市青山1-13 三船照子 022-222-9113
あごら浦和	浦和市南浦和2-19 山中マツ江 044-888-0000
あごら柏	柏市豊四季台3-1 古賀節子 047-711-4551
あごら北東京	豊島区東池袋1-45 志賀由美子 03-985-5111
あごら武蔵野	小平市小川町1-7 丹羽雅代 042-333-4444
あごら京王	調布市仙川町3-12 福井浅子 03-330-8888
あごら神奈川	川崎市多摩区東生田2-12 森山方沼田千恵子 044-933-3333
あごら東海	愛知県愛知郡東郷町和合ヶ丘1-12 伊藤汎美 056-133-9999
あごら京都	京都市左京区北白川久保田町36-4 塚崎美和子 075-757-1111
あごら大阪	茨木市西駅前町2-10 遠藤由美 072-611-2222
あごら九州	福岡市西区笹丘1-2 小島豊子 092-552-1111